ジーニアス英和辞典 第3版
ジーニアス和英辞典

ユーザーズガイド

ご注意
(1) 本マニュアルの著作権およびソフトウェアに関する権利は全てカシオ計算機株式会社に帰属します。
(2) 本マニュアルの内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本マニュアルの内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらご連絡ください。
(4) 運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
(5) 本マニュアルは、本機(CASSIOPEIA l'agenda)の基本的な操作(ボタン操作や画面上の操作など)をマスターされていることを前提に制作しております。本機の基本操作については、付属の取扱説明書を参照してください。
(6) 本書中に含まれている画面表示は、実際の画面とは若干異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

本書はお読みになった後も大切に保管してください。

出典について

収録してあります辞典の内容は、小西友七・南出康世編集主幹『ジーニアス英和辞典 第３版』および小西友七編集主幹『ジーニアス和英辞典』に基づき、大修館書店のご協力を得て編集したものです。

※ 図版・一部の表などを除き、書籍版(大修館書店刊)のほぼ全内容を収録しています。ただし、画面表示の都合および社会情勢の変化その他の事情により、大修館書店の監修に基づいて、書籍版の内容を改変した部分があります。

目次

■ 概要と基本操作

この辞典には、大修館書店の「ジーニアス英和辞典 第3版」(約95,000語)と「ジーニアス和英辞典」(約80,000語)の2種類が含まれています。電子辞典ならではの、さまざまな検索方法や機能をご利用いただくことができます。

主な特長

・見やすいデータ表示

見出しのボールド表示やカラー表示で、見やすいデータ表示となっています。また、データ表示の文字サイズを拡大・標準・縮小の3サイズから選ぶことができます。

・多彩な情報を収録

英和辞典では、訳語だけでなく[用例]や[解説]、[成句・複合語]を表示することができます。

・ 多彩な検索方法に対応

調べたい語を入力して検索するだけでなく、検索する語があいまいな場合の「ワイルドカード検索」、最近調べた語を再度検索する「ヒストリー検索」、検索結果のデータ表示をドラッグしての検索などが可能です。

・ マーク機能

見出しにしおりを付けて、あとで簡単に呼び出すことができます。

辞典を起動するには

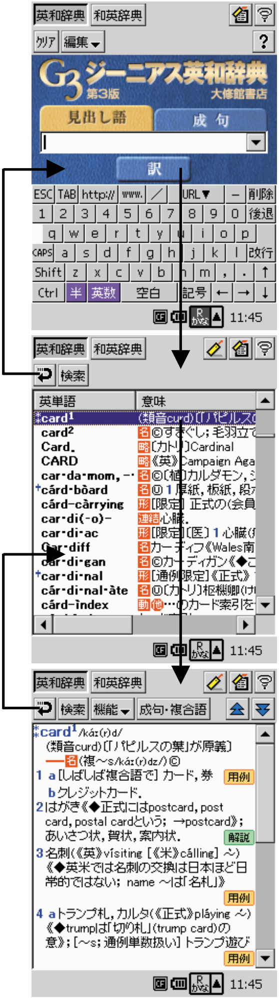
1. l'agendaの電源を切ってください。
2. l'agendaのカードスロットに、同梱のCFカードを挿入します。
   - 自動的に電源が入ります。
3. トップメニューボタン  を押します。
   - 専用メニュー画面が表示されます。
4. 使いたい辞典(「ジーニアス英和辞典」または「ジーニアス和英辞典」)をタップします。
   - タップした辞典が起動し、探したい語を入力するための【検索画面】が表示されます。
   - 辞典の起動後でも、画面左上の[英和辞典]／[和英辞典]ボタンをタップすることで、辞典の種類を切り替えることができます。
   - をタップすると、表示中の辞典(英和または和英)のヘルプ画面が表示されます。
   - 辞典を終了するにはをタップしてください。

注意

・辞典使用中は、CFカードは抜かないでください。

辞典の画面遷移について

辞典には、主に次の3種類の画面があります。この辞典を使う際には常にこれらの画面の間を行き来しならが操作を行いますので、はじめに覚えておきましょう。



【検索画面】：語の検索を開始するための画面です。

- 辞典を起動したときには、必ずこの画面が表示されます。
- この画面で調べたい語を入力して、検索をはじめることができます。

【リスト画面】：検索結果を一覧表示する画面です。

- 【検索画面】で調べたい語を入力し[訳]ボタンをタップしたときに、入力した語に対する該当語が複数ある場合は、この画面が表示されます。
- 【リスト画面】に表示されている語をダブルタップすることで、その語の詳細を表示する【データ画面】を表示できます。
- をタップすると【検索画面】に戻ります。

【データ画面】：1語の訳データを表示する画面です。

- 【検索画面】で調べたい語を入力し[訳]ボタンをタップしたときに、入力した語に対する該当語がひとつだけの場合は、直接この画面が表示されます。
- 英和辞典の場合は、この画面からさらに、語に対する用例や解説などを表示することができます。
- をタップすると【リスト画面】に戻ります。

辞典を引くには

ここでは、辞典を引くための基本的な操作方法を説明します。

基本的な検索操作

調べたい語を入力して、語の意味を表示する基本操作を説明します。

メモ

以下の操作の中で出てくる【検索画面】【リスト画面】【データ画面】の概要については、「辞典の画面遷移について」(8ページ)を参照してください。

1. 調べたい語に応じて英和辞典または和英辞典を起動し、辞典の【検索画面】を表示します。
   - ※ 英和辞典の場合は「見出し語検索」と「成句検索」を選ぶことができます。ここでは「見出し語検索」の場合で説明します。
   - ※ 成句検索については、13ページを参照してください。
   - ・ 英和辞典の場合は英数入力キーボード、和英辞典の場合はひらがな入力キーボードが自動的に表示されます。
2. キーボードを使って、調べたい語を入力します。
   - ・ 英和辞典から語を検索する場合はアルファベットで、和英辞典から語を検索する場合はひらがな(またはカタカナ)で、入力を行ってください。
   - ・ 検索語は、39文字まで入力できます。
3. [訳]をタップします。
   - ・ 入力した語に合致した語が【リスト画面】に一覧表示されます。
   - ※ 検索語が多く時間がかかる場合は「検索中」というダイアログが表示されます。この場合、ダイアログの[中止]をタップすれば、検索を中止できます。
   - ※ 入力した語に合致した語が1語だけの場合は、手順4の【データ画面】がすぐに表示されます。
4. 【リスト画面】に表示された語の中から1語の詳細を表示したい場合は、表示したい語をダブルタップします。
   - ・ 該当語の【データ画面】が表示されます。
   - ・ 【リスト画面】から【データ画面】に移った場合は、／ボタンをタップすることで、【リスト画面】で表示されていた前後のデータに移動することができます。
   - ※ データ表示上での略語などの表記についてくわしくは、16ページの「英和辞典について」、または37ページの「和英辞典について」を参照してください。
   - ※ 英和辞典の【データ画面】からは、さらに[用例][解説][成句・複合語]の詳細情報を表示することができます。くわしくは「英和辞典の【データ画面】について」(11ページ)を参照してください。

メモ

- ・手順3で[訳]をタップし、検索語が見つからなかった場合は、「該当するデータがありません」というメッセージが表示されます。
- ・英和辞典の【検索画面】でひらがなを入力し[訳]をタップした場合は、和英辞典から検索が行われます。逆に和英辞典の【検索画面】でアルファベットを入力し[訳]をタップした場合は、英和辞典から検索が行われます。

【データ画面】に表示する文字サイズ／行間隔を変更するには

【データ画面】では、画面上に表示する文字サイズや行間隔を変更して、見やすい表示を選ぶことができます。

文字サイズ ....「拡大」「標準」「縮小」の3種類
行間隔 ....「広い」「標準」「狭い」の3種類

- 文字サイズを変更するには、【データ画面】で[機能▼]をタップし、表示されるメニュー上で[拡大]／[標準]／[縮小]のいずれかをタップしてください。現在選択されている文字サイズにチェックが付きます。
- 行間隔を変更するには、【データ画面】で[機能▼]→[行間隔]の順にタップし、表示されるサブメニューで[広い]／[標準]／[狭い]のいずれかをタップしてください。現在選択されている行間隔にチェックが付きます。

【データ画面】上のスクロールバーを隠すには

【データ画面】上のスクロールバーを隠す(非表示状態にする)ことで、表示領域を広げることができます。スクロールバーの表示／非表示を切り替えるには、【データ画面】で[機能▼]をタップし、表示されるメニュー上で[スクロールバー表示]をタップしてください。スクロールバー表示中にタップすると非表示に、非表示中にタップすると表示状態になります。スクロールバーの表示中は、[スクロールバー表示]のメニュー項目に対してチェックが付きます。

【データ画面】上の文字をコピーするには

【データ画面】上の文字をコピーして、他のプログラム(メモやメールなど)に貼り付けることができます。

- 【データ画面】上の文字をコピーするには、コピーしたい範囲の文字をドラッグして選択し、[機能▼]→[選択範囲をコピー]をタップしてください。
- 【データ画面】上に表示されているすべての文字をコピーしたい場合は、[機能▼]→[すべて選択]をタップしてすべての文字を選択状態にした上で、[機能▼]→[選択範囲をコピー]をタップしてください。

メモ

辞典で使われている文字の中には、辞典以外のプログラム上では表示できない文字(発音記号など)が含まれています。このような文字をコピーして、他のプログラムに貼り付けた場合は、別の文字として貼り付けられます。

検索した後で元の画面に戻るには

- 【データ画面】から【リスト画面】、【リスト画面】から【検索画面】に戻るには、↩をタップします。↩をタップして【検索画面】まで戻った場合は、【検索画面】で入力した検索語は保持されます。
- 【データ画面】や【リスト画面】から直接【検索画面】に戻り、はじめから検索を行いたい場合は、[検索]をタップしてください。[検索]をタップして【検索画面】に戻った場合は、検索語はクリアされた状態(空欄の状態)となり、すぐに次の検索語を入力することができます。

英和辞典の【データ画面】について

英和辞典の【データ画面】からは、さらに用例、解説、成句・複合語の詳細情報を表示することができます。

用例／解説を表示するには

- 【データ画面】で用例をタップすると、データ画面で表示中の語の用例を表示する【用例データ画面】に移動します。また、解説をタップすると、データ画面で表示中の語の詳細な解説を表示する【解説データ画面】に移動します。
- 各画面を表示する前の【データ画面】に戻るには、↩をタップします。

メモ

【用例データ画面】、【解説データ画面】で可能な操作は、【データ画面】と同じです。

成句・複合語を表示するには

【データ画面】に表示中の語に対して成句・複合語がある場合は、成句・複合語ボタンが画面に表示されます。

- 成句・複合語を表示するには、成句・複合語をタップします。まずはじめに、【成句リスト画面】が表示されます。
- 【データ画面】に戻るには、↩をタップします。
- 【成句リスト画面】に表示された成句または複合語の中の1つの詳細を表示したい場合は、表示したい語句をダブルタップします。
  【成句データ画面】が表示されます。
- ▼／▲ボタンをタップすることで、【成句リスト画面】で表示されていた前後のデータに移動することができます。
- 【成句リスト画面】に戻るには、↩をタップします。

メモ

【成句データ画面】で可能な操作は、【データ画面】と同じです。

■ さまざまな検索のしかた

ここでは、最近調べた語を再度検索する「ヒストリー検索」、【データ画面】に表示された文章をドラッグしての検索、検索する語があいまいな場合の「ワイルドカード検索」など、さまざまな検索のしかたについて説明します。
また、語にマークを付けて後から呼び出すことができる「マーク機能」についても説明します。

ヒストリー検索を利用するには

最近検索した50件の検索語が記憶されており、同じ語を再び検索することができます。

1. 英和辞典または和英辞典を起動します。
   - 辞典の【検索画面】が表示されます。
2. テキストボックス右側の▼ボタンをタップします。
   - これまでに検索した検索文字がドロップダウンリストに表示されます。
3. ドロップダウンリストから、再検索したい文字列をタップします。
   - タップした語がテキストボックスに入力されます。
4. [訳]をタップします。
   - この後は、「基本的な検索操作」(9ページ)の手順3以降と同様です。

メモ

手順1で表示した辞典の種類にかかわらず、ドロップダウンリストからひらがなの語を選んだ場合は和英辞典から、アルファベットの語を選んだ場合は英和辞典から検索が行われます。

【データ画面】上の語をドラッグして検索するには

検索結果として表示した【データ画面】上で、説明文の中の一部をドラッグして選択し、その語によって新たに検索を実行することができます。

1. 「辞典を引くには」(9ページ)の操作で語の検索を行い、【データ画面】を表示します。
   - 英和辞典の場合は、【用例データ画面】／【解説データ画面】(11ページ参照)、【成句データ画面】(11ページ参照)を表示しても構いません。
2. 新たに検索したい語を、【データ画面】上でドラッグして選択します。
3. [検索]をタップします。
   - 選択した語で検索が行われ、合致した語が【リスト画面】に一覧表示されます。
   - この後は、「基本的な検索操作」(9ページ)の手順3以降と同様です。

メモ

英和辞典でドラッグした語で検索を行った場合は、常に見出し語検索となります(成句検索は行われません)。

ワイルドカード検索を利用するには(英和辞典のみ)

英和辞典では、あいまいな語の検索を行う際に「ワイルドカード」を利用することができます。英和辞典の【検索画面】で語を入力する際に、下記の要領で「？」または「＊」を語の間や末尾に差し挟んで、検索を実行してください。

「？」を使う ....「？」(半角クエスチョンマーク)は、任意の１文字を表します。
例えば「sta??」と入力した場合、「sta」で始まる5文字の語句(「stage」、「staff」など)が検索されます。

「＊」を使う ....「＊」(半角アスタリスク)は任意の文字列を表します。
例えば「sta＊」と入力した場合、文字数に関係なく、「sta」で始まる語句すべてを検索します。

注意

- ワイルドカード(「？」および「＊」)は、文字列の先頭には使えません。
- 和英辞典ではワイルドカードを使うことはできません。
- 「？」の後に「＊」を入力して検索することはできません。
- 成句検索ではワイルドカードを使うことはできません。
- 「？」は１９文字まで使うことができます。

成句検索を利用するには(英和辞典のみ)

英和辞典では、複数の語から成る成句を入力して、直接検索する「成句検索」を利用することができます。成句検索は以下の手順で行います。

1. 英和辞典の【検索画面】を表示します。
2. 「成句」をタップして選択します。
3. キーボードを使って、調べたい成句を入力します。
   - 成句を入力する際は、語と語の間を半角スペースで区切ってください。
4. [訳]をタップします。
   - 入力した語に合致した【成句リスト画面】が表示されます。
   - 【成句リスト画面】から語句を1つ選択して、【成句データ画面】に移動することができます。
   - 【成句リスト画面】、【成句データ画面】については、「成句・複合語を表示するには」(11ページ)を参照してください。

マーク機能を利用するには

ちょうど紙の辞典に付箋を付けるように、後でもう一度参照したい語(見出し語)にマークを付けておくことができます。各辞典ごとに100件までマークを付けることができます。

メモ

・各辞典で100件を超えてマークを登録すると、古いものから順に消去されます。
・同じ語を複数回マークしても、マークは1つだけ登録されます。

見出し語にマークを付けるには

マーク付けは、【リスト画面】または【データ画面】で行うことができます。見出し語にマークを付けるには、をタップしてください。

【リスト画面】の場合

マーク付けしたい語をタップして選択し、をタップします。「選択した語句をマークしました」というメッセージが短く表示され、マーク付けが行われます。

【データ画面】の場合

をタップします。「表示中の語句をマークしました」というメッセージが短く表示され、マーク付けが行われます。

マークを付けた見出し語を参照するには

マーク付けした語を参照したい場合は、次の手順で操作します。

1. をタップします。
   ・「マーク画面」が表示されます。
2. 参照したい辞典に応じて、[英和辞典]または[和英辞典]タブをタップします。
   ・ タップした側の辞典でマーク付けした見出し語が一覧表示されます。
3. 参照したい見出し語をタップして選択し、ジャンプをタップします
   ・ 選択した見出し語の【データ画面】が表示されます。

マークを削除するには

マークをひとつずつ削除したい場合は、次の手順で操作します。

1. をタップします。
   ・「マーク画面」が表示されます。
2. [英和辞典]または[和英辞典]タブをタップします。
   ・ タップした側の辞典でマーク付けした見出し語が一覧表示されます。
3. マークを削除したい語をタップして選択し、削除をタップします。
   ・ 選択した語に対するマークが削除されます。

すべてのマークを一括して削除するには

片方の辞書(英和または和英)に登録したマークを、次の手順で一括して削除することができます。

1. をタップします。
   - 「マーク画面」が表示されます。
2. マークを一括削除したい側の辞書を、[英和辞典]または[和英辞典]タブをタップして選択します。
3. すべて削除をタップします。
   - 「マークをすべて削除しますか？」という確認ダイアログが表示されます。
4. 削除して良い場合は[はい]をタップします。
   - 削除するのをやめる場合は[いいえ]をタップします。

■英和辞典について

I 見出し語

A 見出し語の並べ方

① アルファベット順に並べてある。同じつづりで大文字・小文字の違いのあるものは，小文字→大文字の順。

② 同じつづりで語源の異なる語は別見出しとし，右肩に番号をつけた(ただし，説明の都合で同語源でも別立てとしたものがある)。

john　John　/　bill[1]　bill[2]　Bill

③ 略語の形(ピリオドの有無，大文字か小文字か)は必ずしも１つに決まっていないが，大文字の略語はピリオドなしとすることが近年普通になってきているので，実情に応じてピリオドなしの形を優先的に示した。

B 重要語の表示

重要度に応じて次のような記号をつけてランクを示した。

⁑	Aランク	中学学習語	約1100語
*	Bランク	高校学習語	約3400語
†	Cランク	大学生・社会人に必要な語	約5100語
無印	Dランク	その他の語	約69400語

C いろいろなつづりがある場合

① 米国式と英国式のつづりがあるときは，米国式を優先し，英国式つづりは参照見出しとした。

⁑ **col · or,**《英》**- · our** ... 名

⋮

⁑ **col · our** / kʌ́lə/《英》名 動 ＝color.

◇ 語尾が「**-ize,**《英ではしばしば》**-ise**」の語は，Dランクの場合，参照見出しを省略した。

② (　)は省略可能の部分，-は最初のつづりとの共通部分を示す。

Bern(e)　［Bern とも Berne ともつづる］

Bah · rain, - · rein　［Bahrain とも Bahrein ともつづる］

(-)はハイフンつきまたはハイフンなしの１語となることを示す。

re(-)estimation　［re-estimation または reestimation］

D 分節

① 音節の切れ目は,次の2種類の記号で表示した。

・(小さい中点)

行末で切るときはここで切って良い。

‐(細い短いハイフン)

行末で切るときはここで切らない方が良い。

cer・e-mo・ny

[この語は行末で切る場合 m の前では切らない方がよいことを示す]

これは主として次のような基準によっている。

(1) 行末で切った場合でも発音がしやすく,また語の構成がわかる。

(2) 1文字だけ行末に残ったり行頭に来たりしない。

(3) 4文字以下の語は切らない。

(4) 人名(およびそれに準ずるもの)は原則として切らない。(ただし人名が一般の名詞や形容詞などとしても用いられるときは,人名でないときの切り方を示した。)

② 発音によって切り方が違うときは,最初に掲げた発音による切り方を示した。

1語化した複合語(非分離複合語)では,構成要素の間だけを・で表示し,他の分節の表示は省略した。

E 2語見出し(分離複合語)

2語以上からなる見出し語(以下「分離複合語」という)は，最初の語の見出し語表示中に[成句・複合語]ボタンをタップして表示されるリストとして掲げた(アルファベット順)。例えば，table knife は見出し語 table を表示中に[成句・複合語]ボタンをタップして表示されるリストとして掲げた(アルファベット順)。

(成句と複合語のデータが両方存在する場合は、成句→複合語の順番に表示した)

◇ New のつく地名(New Zealand など)は new の見出し語には入れないで独立の見出し語とした。

F 派生語の扱い

① 次のような接尾辞を付けてできた派生語は，D ランクの場合には，見出し語の末尾(すべての品詞の後)に続けて掲げることがある。

-ability	-able	-al
-an	-ed	-er
-ic	-ical	-ing
-ish	-ism	-ist
-ity	-like	-ly
-ment	-ness	-or
-ship	-tion	など

この扱いをした派生語はアルファベット順によらない(見出し語検索では検索できません)。

② 派生語のアクセントや発音が主見出し語と異なるときは，これを明記した(特に発音やアクセントを示してないものは主見出し語と同じである)。

③ ～は見出し語まるごとの代用である。

blóod･less/-ləs/形 ......
～･ly 副 ...
～･ness 名 ...
[bloodlessly,bloodlessnessとなることを示す]

II 発音

A 発音の表記

① 発音記号は別表「発音記号表」のものを用い，/　/に入れて示した。省略可能な音は (　) に入れて示した(省略可能なəはəとした。また「発音記号表への注」の１も参照)。第1強勢(ストレス)は´，第2強勢は`をつけた。複数の発音が併記してある場合は，最初に示したものが最も一般的な発音である。

② 発音の一部を省略するときは，省略部分をハイフン (-) で示した。発音が同じで強勢の位置だけが異なるときは，ダッシュを使って/–́ – –̀ –/のように表記した(１音節につき１つのダッシュ)。

③ 品詞によって発音が違うときは，見出し語の直後に一括して掲げた(重要語についてはそれぞれの品詞のところにも示した)。動＋は「動詞の場合はこの発音もある」と言う意味。

B 米音と英音

米国式と英国式の発音が異なるときは，米音・英音の順で示し，間に｜を入れた。ただし，米音と英音が規則的に対応する場合には，「発音記号表への注」の１に示すような読み替えを行う。

C 音節主音的子音の発音表記

主として日本人の発音に多い誤りを防ぐ配慮から，語の終りにくる「音節主音的子音」/l/ /m/ /n/ の前では通例母音を表示しない。詳しくは「発音記号表への注」の5参照。

D 複合語の発音

① Ｃランク以下の非分離複合語・ハイフン付き複合語については，特に必要な場合を除いて，発音表記を省略し，強勢だけを示した。分離複合語も強勢だけを表示した。ただし，複合語の構成要素がこの辞典の見出し語にない場合や，特にわかりにくい場合などは発音を示した。

② 形容詞の限定用法(または名詞の形容詞的用法)において「強勢移動」(→「発音記号表への注」の7)がしばしば起こる語には，《◆限定用法では通例/–́ – –̀/》のように注記した。この場合，分離複合語(→I-E)についてもしばしば強勢移動が起こる。

E 派生語の発音

Ｃランク以下の派生語は，元になった語に追加する部分・発音の違う部分だけを示した。Ｄランクで次のような語尾で終る語は，特にまぎらわしい場合を除いて，発音を示さない。

-er /-ə(r)/

-ing /-iŋ/
-ed /-id,-d,-t/
-ist /-ist/
-ism /-ìzm/
-ly /-li/
-ment /-mənt/
-ness /-nəs/
-less /-ləs/

F 接頭 接尾 連結

接頭 接尾 連結 の発音は代表的な発音だけを示した。実際の語のなかでは他の発音もありうる。

G《発音注意》・同音・類音

発音がわかりにくい語や日本人がよく誤って発音する語には《発音注意》《アクセント注意》(これは「強勢の位置に注意」の意)と注記した。発音との関係などでつづりを誤りやすい語には《つづり注意》と注記した。

C ランク以上の語では，発音表記の後に (同音　) として見出し語と同じ発音の語を掲げた。見出し語または掲げた同音語に複数の発音があるときも,同じ発音があればこれに含めている。なお、米・英の差があるときは次のようにした。

soar /sɔ́:(r)/ (同音《英》saw)［見出し語の発音に米英差があることを示す］
saw ² /sɔ́:/ (同音 soar《英》)［掲げた同音語に米英差があることを示す］

日本人の立場から見て発音が似ていてまぎらわしい語を 類音 として掲げた。

fork /fɔ́:(r)k/ (類音 folk)

III 本義(中核的意味)・原義(語源的意味)

A 本義・原義

A，B ランクの語については，意味の総合的な理解を助けるため，その語の語義全体の基本となる「本義(中核的意味)」，もしくは「原義(語源的意味)」を〔　〕に入れて示した。

watch　〔「目を覚ます」が原義〕
receive　〔後に(re)取る(ceive)〕
go　〔発話が行なわれた時点または発話の中で示された時点に，go の主語が話し手［聞き手］の所から他の場所に「行く」というのが本義.「行く」と「至る」の 2 義に分けられる (⟷ come). cf. take II〕

◇「原義」としてどこまでさかのぼったものを示すかは，語の事情によりさまざまである。

時には必要により語義の派生的・発展的意味をも示した。

ear　〔「耳」の機能面から「聴覚・傾聴」，形状面から「(水差しの)取っ手」などの意が生じた〕

〔→able〕は able の項を参照せよ，の意。

C ランク以下の語や成句についても，その語句の理解に役立つ語源的情報などを適宜〔　〕で示した。

B 由来

外来語(完全に英語化しているものも含む)は，その由来する言語名を〔フランス〕〔スペイン〕などとして示した。

〔聖〕は聖書，〔Shak.〕はシェイクスピアの作品に由来する句・用法であることを示す。

IV 品詞

A 品詞の表示

① 品詞は次のように示した。

名 名詞	代 代名詞
動 動詞	自 自動詞
	他 他動詞
助 助動詞	前 前置詞
形 形容詞	副 副詞
間 間投詞	接 接続詞
接頭 接頭辞	
接尾 接尾辞	
連結 連結形	
略 略語	
記号 記号	

② 分離複合語には品詞を示していない。ただし，外来語などわかりにくいものには示した。

B＜派＞

A，Bランクの語については，重要な派生語を〈派〉として品詞表示の前に掲げた。

V 語形変化

A 語形変化の表示の原則

① 名詞，動詞，形容詞，副詞の語形変化は，品詞表示のすぐ後に(　)に入れて示した。

② A，Bランクの語については，規則変化もすべて発音とともに示した。
Cランク以下の語については，不規則変化と，注意を要するもの(子音を重ねる場合など)だけを示した。非分離複合語・ハイフン付き複合語については，原則として後半の要素(例えば bookshelf では shelf)の変化と同じであるので，省略した場合もある。

③ ～は見出し語まるごとの代用，ーは見出し語の一部(音節の切れ目から前)の代用である。/～/ は(語形変化した場合でも)発音が見出し語と同じであることを示す。

B 名詞の複数形

(複　)と表示した。つづりが -o で終る語，その他注意を要する語については，Cランク以下でも複数形を示した。

C 動詞の語形変化

① 動詞の語形変化は

(三人称単数現在形 ; 過去形, 過去分詞形 ; 現在分詞形)

のように示した。

過去形と過去分詞形が同じ場合は 1 回だけ表示した。

2つ以上の形があるときは or で示した。

run (~s/-z/; ran/rǽn/, run/rʌ́n/; ~ · ning)

［三人称単数現在形 runs; 過去形 ran; 過去分詞形 run; 現在分詞形 running であることを示す］

keep (〜s/-s/;kept/képt/;〜·ing)

[過去形·過去分詞形はともに kept であることを示す]

spring... 動 (~s/-z/; sprang/sprǽŋ/ or《米》sprung/sprʌ́ŋ/, sprung; ~ · ing)

［過去形は sprang（または米国では sprungも用いる）, 過去分詞形は sprung］

leap (~s/-s/; leaped/líːpt | lépt,líːpt/ or《主に英》leapt/lépt,《米＋》líːpt/; ~ · ing)

［過去形・過去分詞形は leaped で，ほかに主に英国で用いる形として leapt があることを示す］

② C ランク以下の語では規則変化の部分は省略するほか，下の例のように適宜簡略な方法で示した。

out · shoot (- · shot) ［過去形・過去分詞形 outshot］

flop (-pp-) ［過去形・過去分詞形 flopped, 現在分詞形 flopping］

D 形容詞・副詞の比較変化

① A，B ランクの１，２音節からなる形容詞・副詞については比較変化をすべて示した。(-er型) とあるのは原級に -er，-est を付加するものである。他の場合は (- · i · er[est]) のように明記した。

3音節以上で表示のないものは more 型である。

◇ 現代英語では -er 型だった語がしだいに more 型へ変わっていく傾向がある。くわしくは more 副 の項の ◇［語法］参照。

② C ランク以下の語では，表示のない場合，1 音節の語では -er 型，2 音節以上の語では more 型である。-y を i に変えて -er をつけるものも単に (-er型) と表示した。2 音節以上の語で -er 型のもの，1 音節の語で more 型のもの，その他注意を要するものは明示した。

◇ (or -er型) は more 型と -er 型の両方が用いられることを示す。

-er, -est をつけるとき語尾の子音を重ねるものは (-tt-) (《英》-ll-) などと示した。

E (ϕ 比較)

A，B ランクの語を中心に，形容詞・副詞で通例比較変化しない語・語義には，(ϕ 比較)と表示した。

VI 語義・文型表示・語法・用例

A 語義の区分・順序

語義は **1, 2, 3** ...の数字で区分し，さらに必要に応じて **a, b, c** ...やセミコロン(;)で区切って示した。多くの語義のある語では，Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ ...で大きな意味ブロックに分けた。

語義を掲げる順序は，現代の使用頻度順を原則としながら，意味の関連・展開がわかりやすい順序となるように工夫した。

B 文型インデックス

重要な動詞については,冒頭に文型インデックス(index の表示)を設け,文型から意味をすばやく検索出来るようにした。

C 語義の示し方

① 語義は，説明的な訳は避け，なるべくそのまま訳語として使えるような形で示すようにした。

訳語のうち省略可能な部分や補足的な部分は ( ) に入れた。

can^{2} ... 名 ... **2** かん詰め(のかん)

[「かん詰め」または「かん詰めのかん」の意になる]

特に,「内包的・補助的意味」(訳語としては現れないことが多いが，通例そういう意味をこめて用いられるという部分)は積極的に ( ) で示すようにした。

cleanly ... 形 ... (性格・習性として，神経質なほど)きれい好きな

channel ... 名 ... **2** (船が通れる)水路

[ ]は直前の語句と交換ができる語句を示す。

decolorize ... 動 ...脱色[漂白]する

[「脱色する」または「漂白する」の意になる]

語義の定義や内容説明は《 》に入れて示した。

② A，B ランクの重要な語義については，文型を指示し，用法の注記などを特に詳しくした。

D 用法の指示，文法上の注記

さまざまな用法・文法上の注記を [ ] に入れて示した(〜は見出し語の代用。ただし，２字以下の語と助動詞は全部つづった)。

以下に主なものを掲げる。

△語形

[P~] 見出し語は小文字だが，大文字で用いる。

[p~] 見出し語は大文字だが，小文字で用いる。

◇分離複合語では次のような表示も用いる。

civil ... **~́ wár** (1)... (2)［the C~W-］a)〔米史〕南北戦争

［the Civil War という形になることを示す］

△名詞の用法

［the ~］［a ~］［an ~］　それぞれの冠詞つきで用いる。

［one's ~］　所有格の人称代名詞 (my, your, his, her, ourなど)つきで用いる。

［~s］［~es］　複数形で用いる。（子音＋ y で終る音については［~ies］と示した。）

◇「大文字で複数形」のような場合は，たとえば［J～s］(judge の項) としないで［Judges］と全部つづった。

分離複合語で後の語が複数形になるときは［-s］とした。

［単数扱い］［複数扱い］［単数・複数扱い］(→VII-C)

［形容詞的に］　限定用法の形容詞のように用いる。

△形容詞の用法

［叙述］　叙述用法 (predicative use)（be, remain など連結動詞 (copulative verb) の補語となる用法）で用いる。

［限定］　限定用法 (attributive use)（名詞の直前［または時に直後］に置いてその名詞を直接修飾する用法）で用いる。

［他動詞的に］　他動詞に由来し，「(…を)…させるような」といった意味で用いる。

△動詞の用法

［be ~ed］　受身形で用いる。

◇［be ~ed］および［通例 be ~ed］については，それに続く訳語も受身にしたものを掲げた。

［be ~ing］　進行形で用いる。

◇受身形・進行形で用いるもののうち重要なものは，文型表示(→VI-E)の形で示した。

◇［命令形で］［通例命令形で］では，それに続く訳語も命令調にした。

△そのほか，さまざまな用法指示

［a ~ of ...］［数詞の前で］［比較級を強めて］［比喩的に］［皮肉的に］など

［俗用的に］は，専門的な語が本来の専門用語としてでなく通俗的な意味で用いられた場合をいう。

名詞の C U は VII を参照。

E 文型表示

① 重要な動詞および一部の形容詞(主としてＡ，Ｂランクの重要な語義のある項目)については，S, V, O (または O_1, O_2), C, M を用いて文型を表示した。

S＝主語　V＝動詞　O＝目的語　C＝補語

M＝副詞的修飾語句(前置詞句，副詞など)

動詞の文型は次の 7 文型を基本とする。

SV	主語＋動詞 …………………………………	第Ⅰ文型A
SVM	主語＋動詞＋副詞的修飾語(句) ………………	第Ⅰ文型B
SVC	主語＋動詞＋補語 ……………………………	第Ⅱ文型
SVO	主語＋動詞＋目的語 …………………………	第Ⅲ文型A
SVOM	主語＋動詞＋目的語＋副詞的修飾語(句) ………	第Ⅲ文型B
SVO_1O_2	主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語 …………	第Ⅳ文型
SVOC	主語＋動詞＋目的語＋補語 ……………………	第Ⅴ文型

② 不定詞，動名詞，that節, wh節などを伴う場合や，ある前置詞を決まって用いる場合などは，それも含めた文型を示した。用いたり用いなかったりする部分は ( ) に入れた。/は，その両側の一部分が交換可能であることを示す。

［SV to do/SV doing］

［SVO_1 to O_2/SVO_2O_1］

［SVO (to be) C/SVO (that)節］

［it is ~ of O to do］

◇O_1,O_2は前置詞の目的語も含め,使用する名詞に文頭から順に番号をつけたものである。したがって,O_1=間接目的語(与格),O_2=直接目的語(対格)という意味ではない。なお,便宜上,目的語以外にもOを用いることがある
(例:[SV(O's) doing])

◇“to do”“doing”という表示は to be, beingを含む。to be, being だけのときは “to be”“being”とする。

F スピーチレベル

語の使われる地域，文体，時代的差異などに関するスピーチレベルは，《　》に入れて示した。主なものは次のとおり(指示のない語は普通に用いられる一般語である)。

△社会的差異

《非標準》　非標準英語(標準英語には特に表示しない)

△レジスター(標準英語内における機能的差異・スピーチレベル)

《正式》　堅い書き言葉・話し言葉(時に《文》に通じる)

《略式》　くだけた書き言葉・話し言葉

《俗》　俗語，非常にくだけた話し言葉

《性俗》　性的な俗語(下品な語，タブーとされる語も含む)

《文》　文語，堅い書き言葉(時に《古》《詩》に通じる)

《詩》　詩で用いる言葉

《まれ》　使用頻度のきわめて低い言葉

△年齢的・人種的・性的差異

《学生語》　《小児語》

《黒人語》　米国の黒人特有の言葉

△地域的差異

《方言》　ある地域でだけ用いる。《英方言》とあれば英国のある地域でのみ用いる言葉ということになる。

《米》　米国でのみ用いる。

《英》　英国でのみ用いる。

《カナダ》　カナダでのみ用いる。

《豪》　オーストラリア・ニュージーランドでのみ用いる。ニュージーランドだけで用いる場合は特に《ニュージーランド》と表示した。

《南ア》　南アフリカ共和国でのみ用いる。

《イング》　イングランド方言

《北イング》　北部イングランド方言

《スコット》　スコットランド方言

《アイル》　アイルランド方言

その他，必要に応じていろいろな地域名を用いた。

△時代的差異

《やや古》　《古》　《廃》

△その他

《愛称》　《掲示》　《Eメール》

その他，場面を表す短い言葉(《空港のアナウンス》《店員の言葉》など)を《　》で示した。

以上を組合わせて《米古》《米略式》《豪俗》などという表示も用いた。

また「主に」「…ではしばしば」「…では時に」「もと」などの言葉も用いて，特に地域ごとの使用実態を示すようにした。

組合わせる場合，「または」の意では中点(・)を入れた。

《主に英》　主に英国で用いる。米国で用いることもある。

《英では主に》　英国では主にこの語句・語形を用いる。他の語句・語形を用いることもある。米国では用いない。

《英ではしばしば》　英国ではこの語句・語形を用いることもよくある。米国では用いない。

《英では時に》　英国では時にこの語句・語形を用いることもある。米国では用いない。

《英まれ》　英国でまれにこの語句・語形を用いることがある。米国では用いない。

《英古》　英国で古い用法でのみ用いる。米国では用いない。

《英・カナダ》　英国とカナダでのみ用いる。

米国起源の語であるが英国でも普通に用いられるものは通例無標示。ただし《もと米》を付した場合もある。

G《PC》《侮蔑》

性差別·人種差別·障害者差別等につながりうる語句には，非差別的表現を，《PC》という表示をつけて掲げた。(PC＝politically correct)

例えば，人間全体を表す男性名詞(例：man, mankind)，男女両性を含む男性職業名詞(例：salesman, congressman)，ことさら男女の違いを強調する語(例：lady doctor, waitress)などに対して，男性に偏しない両性平等に使える語を示した。

assemblyman　議員 (《PC》assembly member)

特定の人種·民族や同性愛者などを見下ろした文脈で用いられ，侮辱と受けとられる語には《侮蔑》という表示をつけて,特に使用上の注意を促した。

Chinaman《侮蔑》中国人 (《PC》Chinese (person))

H 専門語

専門的な語，決まった分野で用いられる語では，分野を〔　〕で示し，多くは略号を用いた(「専門分野略語表」参照)。ただし，訳語から明らかなものは表示を略した場合がある。

I 選択制限

動詞の主語・目的語・補語，形容詞の被修飾語，前置詞の目的語などにどういう内容の語がくるか(選択制限)を，語義の中に〈　〉で示した。文型表示をしたものは，その中のS, O, C などと対応させてある(SVO 構文の他動詞など誤解のおそれのない場合は〈　〉の前の O は省略した)。

call ... **動** ...**1a** [SVO]〈人が〉〈人・名前・動物など〉を (大声で)呼ぶ
[主語については〈…が〉のように示す]

derive... **動** ...**1 a**[SVO$_1$from O$_2$]〈人などが〉O$_2$〈本源となる物・事〉からO$_1$〈利益・楽しみ・安心・知識など〉を引き出す，得る

decent... **形** ...**2**...〈態度・考え・言葉・人などが〉上品な，慎み深い

desire... **動** ...**1 a** [SVO/SV to do]〈人が〉〈物・事〉を[…することを]強く望む
[[SVO] の場合「〈物・事〉を強く望む」,[SV to do] の場合「…することを強く望む」の意となる]

J 連語関係

① その語と一緒によく用いられる前置詞(場合により動名詞・不定詞など)を，語義の後に〔　〕に入れて示した。それに対応する訳語も〔　〕で示した。

fire... **動** ...**1**〈人が〉〈銃・弾丸など〉を〔…めがけて〕発射する，発砲する，〈矢を〉放つ〔at,into, on, upon〕

fight... **名** ...**1**〔…に対する／…のための〕戦い，戦闘，闘争〔against/for〕
[「…に対する」の意では against,「…のための」の意では for を伴うことを示す]

② 動詞にしばしば伴う副詞辞は，+印をつけて ( ) に入れて示した。

figure... **動** ...**1** …を計算する，合計する(+up)

K いろいろな注記・記号

① 語義の後の ( ) 内に同義語または言い換え可能な英語を示した。

語義になんらかのスピーチレベルが示してあるときは，できるだけ中立的な語(句)を ( ) 内に示すようにした。

語義・訳語についての関連情報や語法説明・語のイメージなどは《◆ 》に入れて示した。説明の長いものは 解説 ボタンを表示し、このボタンをタップして参照するようにした。

② 必要に応じて，次のような表示を用いた。

◇［関連］　◇［語法］
◇［文化］　◇［事情］
◇［類］　類義語
◇［比較］　日本語と英語の比較
◇［表現］　主に英語で表現する場合に役立つ知識
×　文法的に誤った英語，語法上不適切な表現
◇時として使われることがある言い方でも，標準的とはいえないもの，外国人学習者としては用いない方が無難なものには × 印をつけた場合がある。
cf.　…を参照せよ
→　…を見よ（直接関連する情報が他の箇所にある場合）
⟷　反意語・対になる語
《外来形容詞》主にラテン語・ギリシア語からの外来語による形容詞形。学術語として用いるものが多い。

L 用例

① 用例は、各項目の語義の後に 用例 ボタンを表示し、このボタンをタップして参照するようにした。各用例の先頭に ¶ を示し、重要な語義については特に多く示すようにした。

用例の中では，見出し語と同じものを～で示した。ただし，2 字以下の語，助動詞，不規則変化した形は全部つづった。

語形変化した形については ～s, ～es, ～ed, ～ing のようにした。語尾の y を i に変えて es をつけるものは ～ies とした。

② [ ] は，語義の場合と同じように，直前の語(句)と交換が可能であることを示す。ただし，英語とその訳の両方に [ ] があるときは，[ ] の前の語(句)同士，[ ] の中の語(句)同士が原則として対応している（これは注記などでも同じ）。

（**eclipse**の項で）a solar [lunar] ～ 日［月］食
［a solar eclipse が「日食」，a lunar eclipse が「月食」となることを示す］

M 用例の言い換え

英文の理解の一助とするため，重要語については用例の言い換え(または言い換え不可についての情報)をスペースの許す限り示してある。

(**cold**の項で)It's ~ in this room. =This room is ~. =I feel ~ in this room. この部屋は寒い.

(**collapse**の項で)Under the weight of the snow the roof of the house ~d. 雪の重みで家の屋根がつぶれた (=The weight of the snow ~d the roof ...)[他を用いた言い換え]

◇言い換えに用いた等号(＝)はまったく等しいという意味ではなく，むしろ ≒ ということで，「ほとんど等しい」とか，あるいは「だいたいこのようにも言える」といったかなり幅のある記号である。

(**student**の項で)a ~ at [×of] Oxford University オックスフォード大学の学生.

N イントネーション，強勢など

イントネーションや強勢によって意味の違いが生じる場合(「部分否定」と「全否定」など)，丁寧さの度合いが異なってくる場合(Thank you. (【↗】)(【↘】) など)，その他必要に応じて用例にイントネーションや強勢を示した。イントネーションは，高低変化の終った箇所に，次のような記号で示した。

(1) 【↘】(下降調)　通例平叙文で用いられ，文の完結を示す。断定的口調。疑問文では同意や情報を求める場合に用いられる。

That's a pity [too bad].(↘) それは残念.

(2) 【↗】(上昇調)　通例疑問文で用いられ，質問・勧誘・依頼などを表す。また文中で，文が未完結であることを示す。

[丁寧な質問] Whó ís it(,please)?(↗) どなたですか.

[勧誘] Will you have some coffee with me? (↗) 一緒にコーヒーを飲みませんか.

Do you drink whisky (↗) or /ə(r)/ brandy? (↗) ウイスキーかブランデー(それとも他のもの)でも飲みますか.

[依頼] Perhaps you would be good enough to read this. (↗) これを読んでいただけるとありがたいのですが.

(3) 【↘↗】(下降上昇調)　通例文頭の文副詞・挿入句[節]で用いる。文尾では対比とか話し手の含みのある態度を示す。

[文頭] To begin with (↘↗) ┊ he is unexperienced; secondly (↗) ┊ he is unreliable. 第一，彼は経験が浅いし，第二に信用できない.

[文尾] I like my lunch hot. (↘↗) 温かければ昼食をいただきます《◆(↘) では「昼食は温かいのがよい」》.

(4) 【→↘】(部分下降調)　中途半端な下降で，未完結あるいは話し手のちゅうちょなどを表す。

[未完結] Like you (→↘), I'm nòt táll.(↘) 君と同じで私も背が高くない.

[ちゅうちょ] I beg your pardon. (→↘) 失礼ですが.

この他，┊ によって，若干の休止があることを示した。

O 強勢の意味・機能

強勢の違いが文法上の働きを示す例をあげる。

(1) 「a wálking díctionary 生き字引，物知り (=a dictionary that walks)」と「wálking stìck ステッキ，散歩用杖(=a stick for walking)」の違いは，walking が前者では分詞，後者では動名詞であることによるが，それが /–́ –́/, /–́ –̀/ の強勢型の違いで表されている。

(2) in any event は成句としては「in ány evènt とにかく，いずれにしても」であるが，in ány evént では文字通り「どんなできごと[行事，種目]においても」となる。

(3) 「She is a prétty, intélligent girl. 彼女はかわいくて頭のよい子だ」の pretty は形容詞であるが，「She is a prètty intélligent girl. 彼女はかなり頭のよい子だ」では副詞である。

VII C と U

A 名詞の C と U

名詞には，数えられるものに C (countable), 数えられないものに U (uncountable) の記号をつけた。語義番号の前にある記号は全部の語義に共通である。番号の後の C U は，次の記号があるまで適用される。

B C と U の意味

①C 名詞は，単数形では a, an (または the, my, any) などの決定詞が必要であり，複数形にすることができる。

U 名詞は，冠詞(または他の決定詞)なしで用いることができ，複数形にならない。いわゆる物質名詞，抽象名詞，集合名詞などがこれに含まれる。特に a, an がつくときは [a ~]，また [しばしば a ~] [しばしば ~s] は [or a ~]，[or ~s] などと示した。

[集合的に] としたものには通例 U C をつけない。

固有名詞には U C 記号をつけない。

②C と U の文法上の基準

C と判断する基準として，

(1)数詞がつくかどうか

(2)不定冠詞がつくかどうか

(3)複数形にできるかどうか

ということがあげられる。

C の基準	book	kindness	curd	news
数詞がつく	＋	－	－	－
不定冠詞がつく	＋	＋	－	－
複数形にできる	＋	＋	＋	－

3つの基準をすべて満たすものが完全な C 名詞，それを満たさないものが U 名詞となる。しかし，すべては満たさないが，その一部(２つの基準)を満たす中間段階のものがある。これも一般に不完全ながら C 名詞扱いされている。kindness のグループがそれである。本辞典ではこのグループの語については，意味区分に応じて U と C とを示しているが，こうした中間段階の語で意味区分を明確に示しにくい語やランクの低い語については一括して CU または UC と表示した。CU は C 性の方が，UC は U 性の方が強いことを表している。

◇ U 名詞であっても，その種類を問題にするときに C 扱いになることがある。これを「**chalk** 名 U ([種類] C) チョーク」のように注記した。この場合，チョークの種類を問題にするときは C となり，chalks of different colors (異なった色のチョーク) のように複数形が用いられる。

C 関連する用法の表示

［the ~］［a ~］［~s］［the ~s］［one's ~］などとあるものは常にこの形で用いられることを示す。この場合 U C はつけない。
複数形の語の語義については，必要に応じ，［単数扱い］［複数扱い］［単数・複数扱い］という表示をした。［単数扱い］の語が主語になった場合は単数の主語に呼応する動詞を用い，また単数の代名詞で受ける（複数形で表示のないものは複数扱いである）。

VIII 成句・句動詞

A 成句の掲げ方

① 成句は語義と別に、成句･複合語ボタンを表示し、このボタンをタップして参照するようにした。
② 配列はアルファベット順（単語ごとでなく，全体を通してのアルファベット順）である。O, O's（時に S など）はアルファベット順に含めないが，one's, oneself, the, a などはアルファベット順に含めた。また ( ) 内の語（省略可能の意）や，［ ］内の語（直前の語と交替可能の意）は含めない。
（成句と複合語のデータが両方存在する場合は、成句→複合語の順番に表示した）

B 成句に用いた記号

① O は動詞・前置詞の目的語を示す（ただし，目的語ではなくても便宜上O を用いた場合がまれにある）。
one's は成句の主語と同じものが人称代名詞（my, your, her, their など）になって入ることを示す。その他の場合はO'sとする。oneself は再帰代名詞（myself, yourself, herself など）が入ることを示す（この辞典の **oneself** の項目の◇［語法］参照）。
〈 〉〔 〕( )［ ］の意味は単語の語義の場合(VI-C-①，I，J-①)と同じである。［ ］が成句見出しと訳の両方にあるときは，用例の場合（VI-L-②）と同じように，英語とその訳を対応させて用いるのを原則とした。
② 成句には標準的な強勢を表示した。ただし，文脈による変動や個人差も大きいので，ひとつの目安としての表示である。
③ 重要語に相当する成句には *印をつけた。

C 成句を扱う場所

原則として，その成句に含まれる名詞のところで扱う。名詞を含まない場合は成句中でもっとも重要な語またはもっとも特徴的な語の見出し語のところで扱う。

in the lóng rùn	**run** 名 で扱う。
hít it úp	**hit** 動 で扱う。
còme (báck) to lífe	**life** 名 で扱う。
kéep one's héad	**head** 名 で扱う。
to the lífe	**life** 名 で扱う。

◇成句は，「成句検索」を用いれば直接検索できる。

D 機能表示

①「動詞＋前置詞または副詞辞」からなる句動詞には成句としての機能(品詞に準ずるもの)を次のように表示した。

［自］自動詞＋副詞辞：　目的語をとらない。

［他］他動詞＋副詞辞：　他動詞なので目的語をとる。原則として副詞辞は目的語の前にも後にも置かれる(～ O up / ～ up O のいずれも可)。ただし O が代名詞の場合は通例 ～ O up のみ可。◇まれに副詞辞ではなく前置詞の場合，たとえば ～ O_1 into O_2の形式もここに入れた。

［自+］［～ on O］自動詞＋前置詞：目的語は前置詞の目的語である。他動詞に近づき、しばしば受け身が可能。

② 句動詞以外でも，形や訳語からわかりにくいものは［名］［副］［接］のように機能表示をした。

E 相互参照など

他の成句と同じ意味のときは＝を用いて次のように示した。

(top の項で) **from tóp to tóe** =from HEAD to foot.

[from head to foot と同じ意味であり,それは head (大文字になっている)の項に説明があることを示す]

他の見出し語のもとで扱った場合は ➞ でそれを示した。

発音記号表

【母音】

/iː/	sea, piece	/əː(r)/*	bird, early
/i/	hit, pick	/əːr ǀ ʌr/	courage, current
/e/	set, red	/ei/	take, eight
/æ/	bat, cap	/ai/	right, try
/æ ǀ ɑː/	laugh, staff	/ɔi/	choice, toy
/ɑː/	father, calm	/au/	out, cow
/ɑ/*	hot, watch	/ou/*	rope, road
/ʌ/	cup, bus	/ɑː(r)/*	star, par
/ɔː/	law, ball	/ɔː(r)/*	door, store
/ɔ(ː)/*	long, soft	/iə(r)/*	deer, fear
/u/	book, would	/eə(r)/*	hair, care
/uː/	soup, food	/uə(r)/*	tour, poor
/(j)uː/*	new, pursue	/-iər-/*	serious, cereal
/ə/	collect, sofa	/-eər-/*	parent, vary
/ər/*	paper, sister	/-uər-/*	tourist, curious

【子音】

/p/	pen, cup
/b/	boy, job
/t/	team, sit
/d/	date, pad
/k/	kick, cut
/g/	gate, leg
/f/	fight, puff
/v/	voice, save
/θ/	three, tooth
/ð/	this, bathe
/s/	sun, pass
/z/	zoo, noise
/ʃ/	she, cash
/ʒ/	vision, pleasure
/ts/	cats, roots
/dz/	reads, adds
/tʃ/	chart, catch
/dʒ/	July, bridge
/h/	hot, who
/m/	man, sum
/n/	not, run
/ŋ/	song, singer
/l/	light, tell
/r/	red, terrible
/j/	yes, opinion
/w/	well, one
/(h)w/*	what, while
/x/	Bach（外国語のみ）
/ç/	Köchel（外国語のみ）
̥	無声化を示す：umph/m̥mm̥/

【発音記号表への注】

1. 米音と英音

/lǽf | lɑ́:f/ のような場合，｜の左側が米国式，右側が英国式の発音である。
《米+》,《英+》は「米国ではこの発音もある」,「英国ではこの発音もある」の意。
*印の音については米音と英音が異なっていて，次のように対応している。

/ɑ/	→ 米 /ɑ/	英 /ɔ/(英音を特に示すときは /ɔ/ を用いた)
/ɔ(:)/	→ 米 /ɔ:/	英 /ɔ/
/(j)u:/	→ 米 /u:/	英 /ju:/
/ə(r)/	→ 米 /ɚ/	英 /ə/
/ə:(r)/	→ 米 /ɚ:/	英 /ə:/
/ə:r|ʌr/	→ 米 /ɚ:/	英 /ʌr/
/ou/	→ 米 /ou/	英 /əu/ (英音を特に示すときは/əu/を用いた)
/ɑ:(r)/	→ 米 /ɑɚ/	英 /ɑ:/
/ɔ:(r)/	→ 米 /ɔɚ/	英 /ɔ:/
/iə(r)/	→ 米 /iɚ/	英 /iə/
/eə(r)/	→ 米 /eɚ/	英 /eə/
/uə(r)/	→ 米 /uɚ/	英 /uə/
/-iɚr-/	→ 米 /-ir-/	英 /-iər-/
/-eɚr-/	→ 米 /-er-/	英 /-eər-/
/-uɚr-/	→ 米 /-ur-/	英 /-uər-/
/hw-/	→ /w-,《米+》hw-/	

/ɚ//ɚ:/については4.参照。

2. /i/と/i:/,/u/と/u:/

/i/と/i:/,/u/と/u:/の違いは，音の長さの違いではなく，音質の違いである。すなわち，/i//u/は舌の位置が低い，緊張がない，唇の形が緩む，といった特徴があるのに対し，/i://u:/は舌の位置が高く，緊張があり，唇が張って[/u/では丸められて]いる(この点，「おじいさん」と「おじさん」を母音の長さで区別する日本語とは事情が異なる。実際のところ，beat/bí:t/とbid /bíd/の母音の長さはほとんど等しい)。

本辞典では従来からの記号を使って表記をしているが，上記の点を考慮して/i//u/の代りに/I//U/で表記することも多くなってきている。

3. あいまい母音 /ə/

通常「あいまい母音」と呼ばれている /ə/ (記号の名称は「シュワー(schwa)」)は，「そのつづり字本来の母音を弱く発音した音」を表す。/ə/ は時に「日本語のアの弱い音」というように説明されることもあるが，実際にはそれだけでなく，かなり広い範囲の音が含まれる。

例えば，today /tədéi/ の /tə-/ は，「タ」ではなく，/tu-/ の方に寄った音である。

4. /ə(r)/と/ə:(r)/(または/ə:r/)

米音における/ə(r)/と/ə:(r)/(または/ə:r/)は，/ə+r//ə:+r/という2つの音の連続ではなく，実際には，それぞれ/ɚ//ɚ:/という1つの母音として発音される(/ɚ/の記号は「かぎ付きのシュワー(hooked schwa)」と呼ばれる)。母音の/ɚ//ɚ:/は,いわば子音の/r/を長めに発音した音(すなわち音節主音的な/r/)であり,これら3つの音の音質は,実質的に同じであると考えてよい。

5. 音節主音的子音の発音表記

主として日本人の発音に多い誤りを防ぐ配慮から，次のような語の終わりにくる「音節主音的子音(syllabic consonant)/l//m//n/の前では通例母音を表示しない。

(1) /pl/ **principal** /prínsəpl/
/kl/ **local** /lóukl/
/sl/ **Russell** /rʌsl/
/bl/ **global** /glóubl/
/fl/ **beautiful** /bjú:təfl/
(ただし,「･･･1杯分」の -fulは/-fùl/)
/zl/ **drizzle** /drízl/
/tl/ **metal** /métl/
/nl/ **national** /næʃənl/
/ml/ **normal** /nɔ́:(r)ml/
その他/dl//gl//vl//ʃl/など。
副詞形では**normally** /nɔ́:(r)məli/のようになる。

(2) /zm/ **prism** /prízm/
/ðm/ **rhythm** /ríðm/

(3) /tn/ **cotton** /kάtn/
/pn/ **happen** /hǽpn/
/dn/ **harden** /hάː(r)dn/
/zn/ **reason** /ríːzn/
/sn/ **lesson** /lésn/
その他/fn//vn//kn/など。
また，/əl//əm//ən//ər/は，それぞれ音節主音的な/l//m//n//r/として発音されることがあることを示している。

6. 強勢（ストレス）とアクセント

アクセントと強勢（ストレス）ということばはしばしば同じように用いられるが，正しくは，強勢は音の強さ（大きさ）を表す用語であり，音の高さや長さとは関係がないのに対し，アクセントは音の強さ（大きさ）に加えて，音の高さや長さなどの要素を総合したものを指す。本辞典の《アクセント注意》は，内容としては「強勢の位置に注意せよ」という意味である。なお，英語のアクセントは強勢を主とする「強さアクセント」（stress accent）であるのに対し，日本語のアクセントは音の高低による「高さアクセント」（pitch accent）という違いがある。

7. 強勢の位置の変化

強勢（ストレス）は，(1) リズムの都合により，また (2) 2つのものを対照させる場合に，その位置が変化することがある。

(1) 英語では，強弱のリズムを整えるために，第1強勢が連続することを避けようとする傾向がある。例えば，後ろの方に第1強勢のある形容詞（または形容詞的用法の名詞）がすぐ次の名詞を修飾するとき，その形容詞の第1強勢が前に移動して，第2強勢のあった位置に置かれることがある。これを「強勢移動（stress shift）」という。
強勢移動が起こるかどうかは，人により，場合により異なるが，本辞典では，一般に強勢移動がよく起きる語については《◆限定用法では /ˊ−−−/》のように注記した。

例：Japanese　普通はJàpanése だが，例えば boy を限定的に修飾するときは通例 a Jápanèse bóy となる。分離複合語（≒ ápricot など）でも同様。
New York　単独では Nèw Yórk だが，「ニューヨーク市」のときは Néw Yòrk Cíty となる。

(2) happy or unhappy　（幸福なのか不幸なのか）のように意味を対照させる場合は，unháppy を本来の強勢位置で発音すると意味の区別にとって重要な un- が際だたないので，第1強勢を un- に移動して únhàppy とし，対照を明確にすることがある。これを「対照強勢（contrastive stress）」という。

8. その他，「II 発音」を参照。

専門分野略語表

〔アメフト〕	アメリカンフットボール
〔アングリカン〕	アングリカンチャーチ
〔医〕	医学
〔印〕	印刷
〔映〕	映画
〔英史〕	英国史
〔音〕	音楽
〔音声〕	音声学
〔化〕	化学
〔絵〕	絵画
〔化工〕	化学工業
〔カトリ〕	カトリック
〔機〕	機械(工業)
〔ギ神〕	ギリシア神話
〔魚〕	魚類
〔漁〕	漁業
〔軍〕	軍事
〔経〕	経済(学)
〔建〕	建築(学)
〔言〕	言語学
〔工〕	工業・工学
〔鉱〕	鉱物学
〔古生〕	古生物
〔史〕	歴史(学)
〔歯〕	歯科(学)
〔社会〕	社会学
〔狩〕	狩猟
〔宗〕	宗教(学)
〔商〕	商業・商学
〔植〕	植物(学)
〔織〕	紡織
〔神〕	神学
〔心〕	心理学
〔人類〕	人類学
〔数〕	数学
〔生〕	生物(学)
〔政〕	政治(学)
〔生化〕	生化学
〔聖書〕	聖書(学)
〔精神医〕	精神医学
〔地〕	地学・地質学
〔虫〕	昆虫
〔鳥〕	鳥類
〔哲〕	哲学
〔天〕	天文学
〔電気〕	電気(工学)
〔電子工〕	電子工学
〔動〕	動物(学)
〔土木〕	土木(工学)
〔農〕	農業・農学
〔バスケ〕	バスケットボール
〔美〕	美術・美学
〔美史〕	美術史
〔物〕	物理(学)
〔プロテ〕	プロテスタント
〔米史〕	米国史
〔法〕	法律・法学
〔薬〕	薬学
〔郵〕	郵便
〔林〕	林業・林学
〔倫〕	倫理(学)
〔ロ神〕	ローマ神話
〔論〕	論理学

◇このほかの分野については省略しない形で，または「学」だけを省略して示してある(例：〔教育〕＝ 教育(学))。

和英辞典について

I この辞典のしくみ

A 見出し語とその並べ方

① かな見出し(ひらがな・カタカナ)で，国語辞典式の五十音順に並べた。

② 清音・濁音・半濁音の順。「っ」(促音)，「ゃ」「ゅ」「ょ」(拗音)は，それぞれ「つ」「や」「ゆ」「よ」の次に置いた。

③ かな表記・漢字表記とも同じ見出しが 2 つ以上あるとき(これは主として対応する英語の品詞によって分けたもの)は，肩に数字をつけ，後ろに〈 〉で区別の手掛りを記した。カタカナの同音語も同様である。

あいする[1][愛する]〈動〉
あいする[2][愛する]〈形〉
ライト[1]〈明り〉
ライト[2]〈野球〉

英語の品詞が見出し語から推測しにくいときにも，〈形〉などで英語の品詞を示した。
助詞・助動詞・接尾辞など独立では用いられない語は，ハイフン(—)をつけて見出しにした。

—に —すぎ —たい —など

B 派生語見出し

① 派生語見出しは，主見出しの後に　◇〜する　のように示した。
ただし，派生語の記述が長いときは，独立の見出しとした。

② 記述が短いものなどは，後述の「複合語・慣用表現(¶印)」で扱った。

C 記述の構成要素

本辞典の記述内容は次のような要素からなる。

あたま[頭]	**[見出し語]**
③[頭脳][知力，思考力，判断力...]	**[意味の区分][類語]**
⁑head [C] 頭脳、理性...II...	**[英語中見出し]**
*brain [U][C] (略式) [しばしば〜s]　頭脳、知能 II...	
⁑mind [U][C] ...心、精神；[U] 知力、知性；[C][U] 考える力、頭脳 II	
▶ drive O_1 into O_2's head O_1＜事＞をO_2＜人＞の頭にたたき込む/.../.../...	**[英語中見出し以外の語を用いた英語用例・成句]**
¶頭を悩ます puzzle ...//〜の回転が速い	**[複合語・慣用表現]**

小さな項目では，適宜簡便な書き方をした。

D 意味による区分

必要に応じ，見出し語を意味によって大きく区分して，①②… で示した。

あたま[頭]　①[頭部]　②[頭髪]　③[頭脳]

E 類語

主要な見出し語については，日本語の類義語・関連語を，見出し語の直後(意味の区分があるときはその区分の直後)に[　]に入れて掲げた。ここに掲げた語を参考にして他の日本語による表現・言い換えを知ることにより，求める英語表現への多様なアプローチが可能になる。

II 英語中見出し

A 英語中見出し

① 見出し語にほぼ対応する英語があるときは，「英語中見出し」を置き，その発音(わかりにくいもののみ)・文型・語義・用法・用例などが英和辞典と同じ方式で掲げた。
配列は，その見出し語を含む文・句を英語で表現する場合の有用性を考慮して並べた。

② 成句も，見出し語にほぼ対応するものは「英語中見出し」として掲げた。

B 記述の方法

① 記述の方法や記号類の用法などは，すべて『ジーニアス英和辞典』と同じである。その概要をVに掲げた。

② 英語の品詞は，日本語との対応がわかりにくいものについて表示した。
英語中見出しの語義のうち，見出し語と同じものは，まぎらわしくない場合省略した(前項の「あたま」の例では，「頭」という語義を省略)。

③ 英語の句・成句などで，動詞・前置詞の目的語をOで示した。また，目的語でなくても，便宜上，名詞にOを用いた場合がある(→V-I)。

III 英語用例・成句

英語中見出しとは別に，見出し語を含む文・句を英語で表現する場合に役に立つ英語用例(英語中見出し以外の語を用いたもの)・成句を，▶印の下に掲げた。

IV 複合語・慣用表現

① 見出し語を含む複合語・慣用表現・慣用表現を含む文などと，それにあたる英語を，¶印の下に掲げた。

② 英語の単語(または分離複合語，短い句)が対応する場合は，まず それを英語中見出しと同様に掲げ，必要によって用例を付した。別の英語との区切りは ; で区切った。

V 英語中見出しでの記述

A 重要度の表示

英語としての重要度に応じて，次のようにランクを示した。

　　⁂　Aランク 中学基本語
　　*　Bランク 高校基本語

B 発音

発音のわかりにくい語，間違えやすい語について，もっとも代表的な発音を示した。用いた記号・書式については「発音記号表」(32ページ)参照。

C 由来

［フランス］［スペイン］［日本］など外来語の由来する言語を示す。

D 品詞表示

① 品詞は次のように示した。

名	名詞	動	動詞	前	前置詞
代	代名詞	自	自動詞	接	接続詞
形	形容詞	他	他動詞	間	間投詞
副	副詞	助	助動詞		
接頭	接頭辞	接尾	接尾辞		
連結	連結形	略	略語		

C U 表示のある語は名詞，自他表示のある語は動詞である。

② 成句のうち，go on, get over のように「動詞＋前置詞または副詞辞」からなる「句動詞」には，成句としての機能（品詞に準ずるもの）を次のように表示した。

［自］　自動詞＋副詞辞　目的語なし

［他］　他動詞＋副詞辞　他動詞なので目的語をとる。副詞辞は原則として目的語（O）の前にも後にも置かれる（get over O/get O over のいずれも可）。ただし O が代名詞の場合は通例 get O over のみ可。

［自⁺］　自動詞＋前置詞(＋目的語)　目的語は前置詞の目的語である。

その他，句動詞以外の成句でも，形や語義からわかりにくいものは［副］［接］のように機能表示をした。

E 語形変化

不規則変化する名詞の語形変化は，原則として，英語中見出しの直後の（ ）内に注記した。

動詞・形容詞・副詞の語形変化については，『ジーニアス英和辞典』を参照。

F 用法指示・文法上の注記

さまざまな用法・文法上の注記を［ ］に入れて示した（ここで，～ は英語中見出しの代用）。以下に主なものを掲げる。

［P~］　大文字始まり　　［p~］小文字始まり

〈名詞〉

［the ~］［a ~］［an ~］　　それぞれの冠詞つき

［one's ~］　　my, your, her, his, our, their をつける。

［~s］［~es］　　複数形（子音＋y で終わる語については［~ies］と表示）

［単数扱い］［複数扱い］

それぞれ単数名詞・複数名詞に呼応する動詞や代名詞を用いる。

〈形容詞〉

［叙述］　叙述用法（be, become, remain などの補語となる用法）

［限定］　限定用法（名詞の直前［時に直後］でその名詞を直接修飾する用法）

［他動詞的に］　他動詞に由来し，「(…を)…させるような」といった意味で用いる。

〈動詞〉

[be ~ed] 受身形　[be ~ing] 進行形　[命令形で]

〈その他〉

[a ~ of...] [比喩的に][けなして][おどけて] など

G [C] と [U]

[C] は数えられる名詞(countable)，[U] は数えられない名詞(uncountable)を示す。
他の注記によって用法が示されているときは [C][U] をつけない。
[U] 名詞であっても，その種類を問題にするとき(「何種類かの…」「何色かの…」など)に [C] 扱いになるものは「chalk [U] (種類 [C])」と注記した。

H [S] と [D]

動詞・形容詞には，必要により，[S][D] の別を示した。

[S] (stative) 人が自分の意志でコントロールできない状態・出来事を表す。

[D] (dynamic) 人が自分の意志でコントロールできる状態・出来事を表す。

[S] と [D] で，原則として，次のような用法の区別がある。

1) 人を主語にした [S] 動詞・形容詞：通例進行形・命令形を用いない。
2) 人を主語にした [D] 動詞・形容詞：通例進行形・命令形で用いることができる(形容詞では“...is being...”のような進行形，“Be...”のような命令形)。
3) 無生物主語の [S] 動詞・形容詞は，永続的な状態を表す場合，進行形を用いない。一時的な状態を表す場合は，しばしば進行形を用いる。命令形は用いない。

I 文型表示

重要な動詞および一部の形容詞については，S(主語), V(動詞), O(目的語)(または O_1, O_2), C(補語), M(前置詞句・副詞など，副詞的修飾語句)を用いて文型を表示した。
動詞の文型は，5文型を拡張した次の7文型を基本とする。

SV	主語＋動詞	第Ⅰ文型A
SVM	主語＋動詞＋副詞的修飾語(句)	第Ⅰ文型B
SVC	主語＋動詞＋補語	第Ⅱ文型
SVO	主語＋動詞＋目的語	第Ⅲ文型A
SVOM	主語＋動詞＋目的語＋副詞的修飾語(句)	第Ⅲ文型B
SVO_1O_2	主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語	第Ⅳ文型
SVOC	主語＋動詞＋目的語＋補語	第Ⅴ文型

ただし，他動詞の[SVO], 自動詞の[SV]は，まぎらわしくない限り表示を省略した。
その他，不定詞・動名詞・that節・前置詞などを伴うときは，必要により，それも含めて示した。
O_1, O_2 は，前置詞の目的語も含め，使用する名詞の順序によって番号をつける(例：SVO_1 to O_2 / SVO_2O_1)。したがって，O_1＝間接目的語，O_2＝直接目的語と固定しているわけではない。なお，便宜上，目的語以外にも O を用いることがある(例：for the sake of O ＝ for O's sake)。

J 選択制限

動詞の主語・目的語・補語，形容詞の被修飾語，前置詞の目的語などにどういう内容の語がくるか(選択制限)を，語義の中に〈 〉で示した。文型表示をした場合は，その中のS, O などと対応している。

hit...他... 〈人・物が〉〈人・物〉にぶつかる
他動詞の[SVO]，自動詞の[SV]は文型表示を省略した。
主語については「〈人・物が〉」のように示す(語義から明らかな場合は省略)。
目的語(O) については，「〈 〉を」「〈 〉に」のように示す(選択制限を示さない場合は「…を」など)。

hand...他[SVO_1O_2/SVO_2 to O_1]O_1〈人〉にO_2〈物〉を手渡す

derive...他[SVO_1 from O_2]O_2〈源となる物・事〉からO_1〈利益・楽しみ・安心など〉を引き出す
O_1, O_2 があるときは，その対応を明示した。

desire...他[SVO/to do]〈物・事〉を[…することを]強く望む
[SVO]の場合「〈物・事〉を強く望む」，[SVO to do]の場合「…することを強く望む」の意となる。

K 連語関係

その語といっしょによく用いられる前置詞(場合により動名詞・不定詞など)を語義の後に〔 〕に入れて示し，それに対応する訳語も〔 〕で示した。

agree...自[SVM]〈風土・食物が〉〔…(の)体質に〕合う〔with〕

動詞にしばしば伴う副詞辞 (up, down など) は，語義の後に (up) のように示した。

light...他〈光などが〉〈場所・物〉を明るくする，照らす (up)

L スピーチレベル

① 語の使われる地域・文体などを《 》で示す。指示のない語は普通に用いられる一般語である。主なものは次のとおり：

《正式》 堅い書き言葉・話し言葉
《略式》 くだけた書き言葉・話し言葉
《俗》 俗語，非常にくだけた話し言葉
《文》 文語
《男性語》《女性語》《小児語》
《米》《英》《やや古》

②《NS》 男女両性を含めて用いられる男性名詞(-man のつく語など)，ことさらに男女の違いを強調する語などに対して，男性に偏しない両性に使える語を示す(NS＝Non-sexism)。

M 専門語

専門的な語，決まった分野で用いられる語は，分野を〔 〕で示した。略号は「専門分野略語表」(☞36ページ)参照。

VI いろいろな注記・記号

（ ）	省略可能な部分，補足的部分
［ ］	直前の語と入れ替え可能(英語とその訳の日本語の両方に［ ］があるときは，両者が対応している)。
《 》	語義・訳語の直接の定義・説明
《◆ 》	関連情報，注記など
➡	…を見よ，参照せよ
↔	反意語・対になる語
×	文法的に誤った英語，語法上不適切な表現(時として使われる言い方でも，標準的とはいえないもの，外国人学習者としては用いない方が無難なものに×印をつけた場合もある)
＝	別の言い方，言い換え
	[聖][Shak.](用例中) それぞれ聖書，シェイクスピアの作品に由来する句・用法であることを示す。
	イントネーションなど：［⤵］下降調/［⤴］上昇調/［↘↑］下降上昇調/［⤷］部分下降調/ ┊ 若干の休止

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543　東京都渋谷区本町1-6-2

PN411751-001　MO0208-002004A　Printed in Japan

再生紙を使用しています。